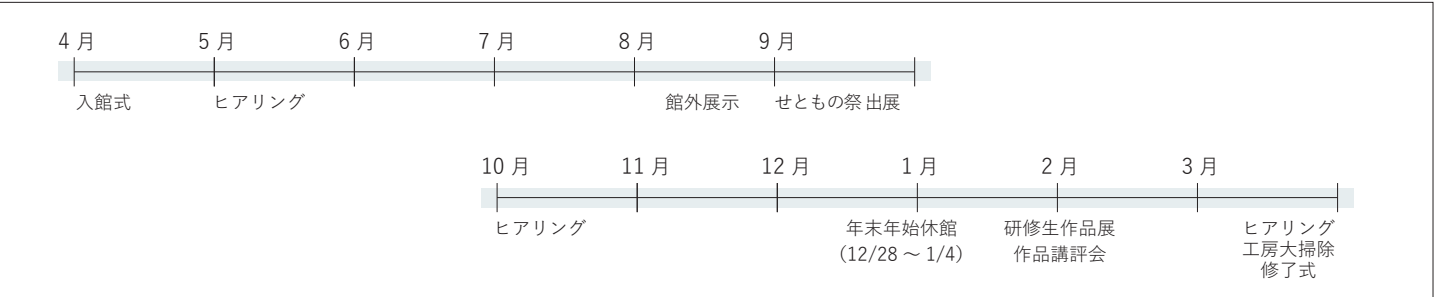


■ 研修の主な年間スケジュール（※2025 年度 / 陶芸コース、ガラス工芸コース共通内容）



上記の也、各コースごとに館外研修や特別講義の実施、瀬戸市内の事業で当館の協賛イベントが開催される場合は参加・協力をお願いしています。
また、ガラス工芸コースでは年2回(7月・12月)の溶解炉壺替えに合わせて工房設備のメンテナンスを行います。

■ 近年の特別講師（敬称略・五十音順/2020～2024年度）

- 入澤 聖明（愛知県陶磁美術館学芸員）
- 氏家 昂大（陶芸家）
- 梅本 孝征（陶芸家）
- 奥山硝子工房（森 智広、ワタナベ サラ / ガラス作家）
- 加倉井 秀昭（ガラス作家）
- 加藤 令吉（陶芸家）
- 金氏 徹平（美術家）
- 木曾 志真雄（陶芸家）
- 神代 良明（ガラス作家）
- 齋藤 智愛（岐阜県美術館学芸員）
- 酒井 智也（陶芸家）
- 佐々木 俊仁（ガラス作家）
- 佐々木 雅浩（ガラス作家）
- 高橋 秀治（豊田市美術館館長）
- 田中 香菜（ガラス作家）
- 常田 泰由（版画家）
- 中川 佳宣（美術家）
- 中田 ナオト（陶芸家）
- 長江 重和（陶芸家）
- はっとりこうへい（彫刻家）
- 早崎 志保（ガラス作家）
- 林 奈美恵（古川美術館学芸員）
- 松下 祐子（ガラス作家）
- マルテル坂本牧子（兵庫陶芸美術館学芸員）
- 宮路 雅行（インストラクター）
- 吉川 正道（陶芸家）
- 和田 奈津美（中国茶インストラクター）



発行：2025 年 9 月

研修生・修了生の展覧会情報や
新世紀工芸館の様々なイベント情報はこちら



WEB サイト



SETOSHINSEIKI

瀬戸市新世紀工芸館

陶芸・ガラス工芸コース 研修制度案内 2026

Seto Ceramics and Glass art Center

Ceramics / Glass course Training program Information 2026

瀬戸市新世紀工芸館

日本遺産に認定され日本六古窯のまちとして名を連ねる愛知県瀬戸市は、平安時代後期から続くやきものの産地として広く知られています。また、瀬戸地域の陶土層には、ガラス工業の原料となる珪砂が豊富に含まれており、明治時代以降は国内有数の産出地として評価されてきました。

恵まれた自然環境と良質な原料を埋蔵する条件が整ったこの地では、長い歴史の中で窯業に携わる人々のたゆまぬ努力によって伝統が育まれ、現在も瀬戸市域には陶磁器を生業とした窯元や店舗が数多く存在する他、多種多様な表現を追求する陶芸家・ガラス工芸作家が制作拠点として精力的に活動を行っています。

このように制作に適した環境の中、『瀬戸市新世紀工芸館』は陶芸・ガラス工芸をテーマに、新世紀の産業・芸術・文化の発展を図ることを目的として 1999 年 5 月に開館した瀬戸市の施設です。

研修制度〔2 年間〕

瀬戸市新世紀工芸館の研修制度は「自由な制作」・「自由な創造」を基本としており、在籍する研修生は自らの課題に取り組み、また自らの計画に基づいて創造性豊かな表現を深めるための研修を行います。

研修生の日々の取り組みに対して工芸館では、より素材と表現に対する考察を促す機会として館外研修や各分野における外部講師を招聘した特別講義・作品講評等の開催、作品発表に繋がる様々な企画の提供を行っています。また、研修生としての多様な考え方を尊重しながら、新しい時代に向けた個と社会の関わりを多角的に捉え、専門の技術スタッフによる対話を中心としたサポート体制の中、俯瞰的視点を養うきっかけづくりに取り組んでいます。

そして館内には、年間を通して研修生が制作した作品を展示・販売するギャラリーが設けられている他、せともの祭をはじめとした各種イベント等への出展、年度末には当館の展示棟にて研修生作品展を開催するなど、作家活動の成果を発表する機会が数多く企画されています。



■ 工房設備

2年間の創作活動拠点となる『工房棟』は、1階から4階まで陶芸・ガラス工芸分野における設備が整っており、冷暖房完備で制作に集中ができる工房環境となっています。各工房にはそれぞれ専門の技術スタッフが常駐しており、研修期間における制作技術や作家活動のサポートを行っています。また、研修修了生に向けた工房設備レンタルを導入しており、修了生の制作活動における支援も行っています。

陶芸工房

《主な設備》

電動ロクロ、土練機（真空・常圧）、セラローラー、ガス窯（2.0㎡：1基、0.5㎡：1基）、電気窯（10kw：2基、15kw：1基）、吹付用スプレーガン、吸引機、コンプレッサー など



ガラス工房

《主な設備》

ガラス溶解炉（クローズドポッド）、グローリーホール、ベンチ、徐冷炉、電気炉（8kw、10kw、22kw:各1基）、ガレージ、小割切断機、平盤研磨機、縦軸研磨機、ベルトサンダー、ウォーターサンダー、サンドブラスター、アーク溶接機 など
グローリーホール、作業用ベンチは各3基あり、同時に作業が可能です。電気炉は吹き場と同じ室内にあり、ピックアップや徐冷にも使用できます。



4階

陶芸・ガラス工芸コース共同のフロアです。「施釉室」では釉薬作業以外に、石膏の原型制作や木作業などにも使用することができます。



3階

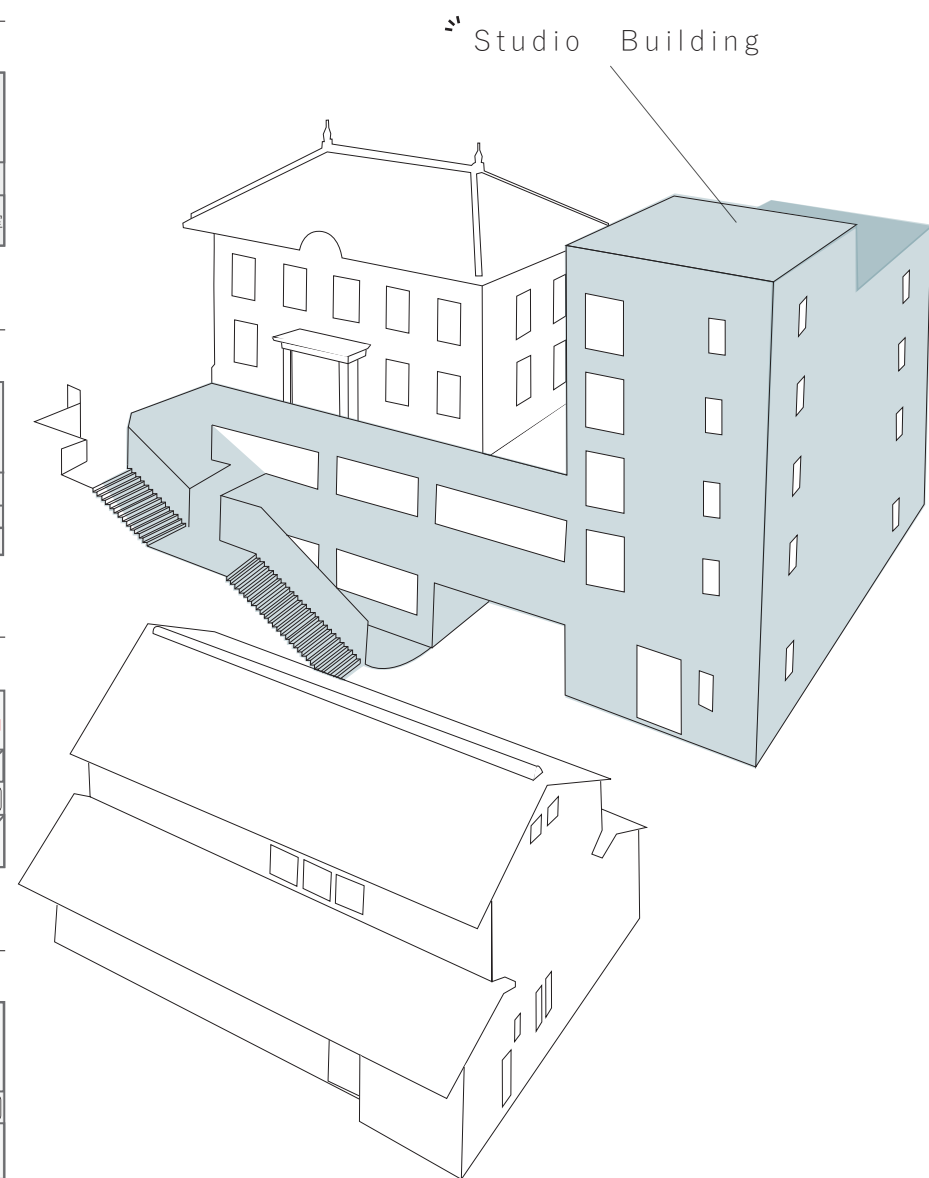
「体験工房」では月1回程度、一般市民向けの陶芸・ガラス体験などを行っています。その他、研修期間における特別講義などの会場としても使用しています。



2階



1階



《その他、共同の工房・設備》

ポットミル、攪拌機、真空攪拌機、石膏ロクロ など

4階「施釉室」



4階「石膏室」



1階「吹付室」



■ 研修生インタビュー



第22期 陶芸コース研修生

寺元 詩織 さん

1996年 東京都 生まれ
2020年 武蔵野美術大学工芸工業デザイン学科 卒業
2020～24年 同学科助手

《主な展覧会》

2021年 企画展「黒帯～燗酒とともに」（福光屋丸の内店 / 東京）
2024年 二人展「土と青」（ギャラリー朔 / 東京）

□今後の展望について
東海地方の作家さんやお客さんなど、ここで得た繋がりを大切にしながら、発表の場を全国へ広げていきたいと思っています。

□制作環境はどうか。
在籍する研修生が少人数のため、個々の制作に集中して取り組むことができます。困ったときにはすぐに相談できる工房スタッフの方々が常駐されているので、とても心強いです。

□制作環境はどうか。
また、カリキュラムがなく自分のペースで制作を進められるという点も、自分にとって重要だと感じ新世紀工芸館を選びました。

□新世紀工芸館を選んだ理由
東京の美術大学で陶芸を学び、その後制作を続ける場所を探す上で、「焼き物の産地のリアルな空気が知りたい」と考えました。
瀬戸は、日本六古窯に数えられる代表的な産地であるとともに、美濃や多治見なども近く、県内には常滑もあり、とても魅力を感じました。
また、カリキュラムがなく自分のペースで制作を進められるという点も、自分にとって重要だと感じ新世紀工芸館を選びました。

□制作環境はどうか。
自分のペースで計画を立てながら動くことができ、とてもスムーズに作業が進められています。もちろん、自分でしっかりと計画を立てないと難しい面もあるかと思いますが、スタッフの方が常にいらっしゃるの、必要な時には気軽に相談できる安心感があります。
また、燃料費や原材料費、設備に関わる費用など、リアルな部分も学べることで、実際にどんな道具や機械が必要なのかを把握できるので、自分の今後の環境を整える際の予習にもなっていると思います。

□制作環境はどうか。
同じ学校の卒業生が何人か所属していることもあり、実際にお話しを伺ったり、工房を見学する中で自分のペースでじっくりと制作に向き合える、集中しやすい環境だと感じました。
また、陶芸コースも併設されていて、ガラスとは異なる素材に触れられることも魅力でした。ガラスと土、異なる素材を掛け合わせることで、今後の表現の幅を広げていけるのではないかと、この可能性も期待しています。



第23期 ガラス工芸コース研修生

藤井 眸 さん

1987年 兵庫県 生まれ
2025年 富山ガラス造形研究所造形科 卒業

《主な展覧会》

2025年 2人展「nagi」（still room.Me/ 山梨）

